

## e ラーニング －英語学習の場合

加 藤 直 良\*

### A study of learning English through e-learning

Naoyoshi Kato

The purpose of this thesis is to investigate e-learning in the world. Around the early 19<sup>th</sup> century correspondence education first appeared. The students received the questions and answered them by mail. In the 1970s an open college was held in the UK. In the 1980s a satellite and networks were developed to help the teachers and students communicate with each other. These days achievements in distance learning have brought on a new way of learning.

はじめに

インターネットが盛んに利用され、世界が小さくなるにつれ、英語の学習パターンもそれに追随するように、変化してきた。わが国の英語教育界もインターネットをフルに活用し、そのハードとしてのコンピュータの普及により、英語学習のプログラム、つまりソフト面の開発も盛んに行われている。この論文では、e ラーニングの現状を的確に捉え、近い将来確実に個々の英語学習の主流をなすと思われるこの英語学習プログラム、e ラーニングに焦点をあて、現状と今後の課題、さらには、今後の展望などを述べる事にする。

#### I. e ラーニングの特徴と能力

e ラーニングとは **electronic learning** をあらわすことは、周知の事実である。ネットを介在した英語学習は広く知られた方法の一つとして、大勢の学習者に認容されているが、果たして、それを総じてみると、様々な問題に直面する。e ラーニングの特徴あるいはe ラーニングで、できることは果たしていかなるものか、まとめてみると次のようになる。

##### 1.1. 個々の都合に合わせた学習が可能

e ラーニングはハードとしてのパソコンや携帯端末よりインターネットにアクセスすることにより、場所を問わず、時間に関係なく、学習者個人の都合に合わせた学習が可能である。従来の大学での授業のように予め予定された枠組みの中で学習する必要がないのが大きな特

---

\* 教養部

徴の一つと考えられる。

1.2. 学習者の能力に応じた学習が可能

英語学習者の能力は当然のことながら、様々であり、場合によっては、大きな開きがある事もまた事実である。従来の一斉授業では、個々の能力差にそれほど配慮された授業方法を取れない現状にある。そこには教員数の不足の問題、特に教材においてもまた然り、マンツーマンの授業など不可能である。このような点をカバーできるのが、e ラーニングである。学習者の能力に応じた学習が可能であり、また学習者の理解力が乏しい場合、理解できるまで何度でも同じ個所のリピートが可能である。相手は何度リピートしても嫌な顔一つせずリピートに応じてくれるのである。

1.3. 問題の解答、解説を瞬時のうちに学習者は把握する事が出来る。

1.4. 学習者は同一の教育を受講できる。

学習者の場所、環境は様々であるが、どのような状況にあれ、学習者は、同じ質の高い教育を受けることが出来る。ハード面の状況が完備されている場合、学習者の環境にまったく左右されない。学ぼうとするもの全てが同一の、しかも高レベルの教育を受講できる。

II. 英語の学習サイト

英語を学習する手段は数年前と比較しても、その進歩は目ざましいものがあり、英語学習者のみならず英語指導者、さらには英語研究者に対しても、完全理解することの難しさを痛感している人も、少なくないはずである。この様な状況下に導いた大きな要因が CALL システムである。お世辞にもコンピュータが得意とは言えない学習者、指導者、研究者にとって、e ラーニングの出現は脅威の何者でもないはずである。逆に便利な道具の一つであると理解し、徹底的に、興味の引かれるがままに突き進むことが出来る人は、昨今の e ラーニングの導入が、まさに待ちに待った朗報であることは明確である。ネットの普及により英語の学習方法も大きく変化し、無数に広がる英語学習サイトも e ラーニングのなせる技そのものである。

2.1. 総合英語

- ・ Learning Oral English Online (<http://www.lll.uiuc.edu/>)
- ・ COMMENIUS (<http://www.comenius.com/>)

2.2. TOEIC

- ・ TOEIC デイリーミニテスト ([http://edu.yahoo.co.jp/school/test/toEIC\\_daily/](http://edu.yahoo.co.jp/school/test/toEIC_daily/))

### 2.3. ニュースの配信

- SportsLine USA (<http://www.sportsline.com/>)
- USA TODAY (<http://www.usatoday.com/>)
- Boston Globe (<http://www.boston.com/news/globe/>)
- CNN ニュース (<http://www.cnn.com/>)
- 英語で読める日本経済新聞 (<http://www.nni.nikkei.co.jp/>)
- BBC News (<http://news.bbc.co.uk/>)
- The New York Times (<http://www.nytimes.com/>)

### 2.4. オンライン作品

- Free Online Novels (<http://www.free-online-novels.com/>)
- Online Literature Library (<http://www.literature.org/authors/>)
- The Complete Works of William Shakespeare  
(<http://the-tech.mit.edu/Shakespeare/works.html>)

### 2.5. 英作文指導講座

- 英語作文道場 (<http://www.geocities.com/SoHo/Square/4892/orange.html>)
- Technical Writing World (<http://www2u.biglobe.ne.jp/~kurapy/writing.html>)
- 海外ペンフレンドサークル (<http://www2u.biglobe.ne.jp/~kice/>)

### 2.6. 子供向け英語ページの配信

- Yahooligans! (<http://www.yahooligans.com/>)
- The Comic Strips (<http://www.unitedmedia.com/comics/>)
- White House for Kids (<http://www2.whitehouse.gov/WH/kids/html/kidshome.html>)

### 2.7. 英文法

- The English Grammar Clinic (<http://www.edufind.com/english/grammar/>)
- Grammar and Style Notes (<http://andromeda.rutgers.edu/~jlynch/Writing/>)

### 2.8. 英会話練習帳

- 30音でマスターする英会話 (<http://www.awa.or.jp/home/uda/>)
- やり直しの英会話のコツ (<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/2345/>)

### 2.9. 辞書のサイト

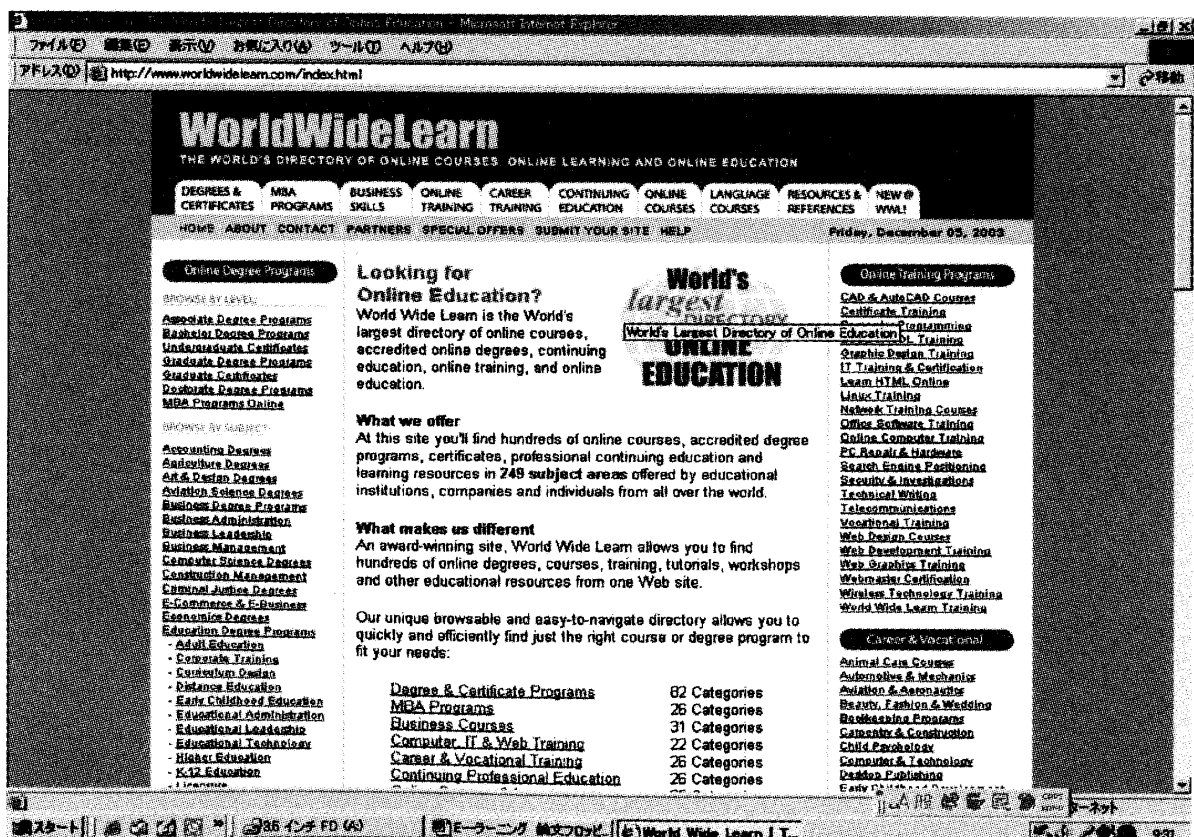
- 英語表現辞典 (<http://www.alc.co.jp/eng/kaiwa/hyogen/index.html>)
- 英辞郎 (<http://member.nifty.ne.jp/eijiro/>)

- ・ **infoseek 英和辞典** ([http://jiten.infoseek.co.jp/Eiwa?pg=jiten\\_etop.html&col=EW](http://jiten.infoseek.co.jp/Eiwa?pg=jiten_etop.html&col=EW))

### III. 大学はなぜ e ラーニングに注目するか。

大学がインターネットの進歩と歩調を同じくし、開発研究してきた分野の一つがまさにネット介在型の遠隔教育である。この場合はほとんどが社会人対象である。仕事を持ち、時間的な制約を持ちながらも学習意欲に満ちた社会人をターゲットにしている。個人の学習トレーニング、社会に出てから継続して勉学に励む者、さらには学位取得をめざす者など様々である。このような要求に e ラーニングは的確に応えてくれる。ここに紹介するネットサイトはアメリカの e-learning のデータベースとなっているものである。

**World Wide Learn** (<http://www.worldwidelearn.com/index.html>)



「アメリカの調査会社 IDC の調査結果によると、2005 年までに米国の高等教育機関のおよそ 90%が何らかの形で e-Learning を導入し、その市場規模は 2005 年までに 50 億ドルに達するという。また、米国教育省 (Department of Education) (<http://www.ed.gov/>)によると、1998 年には米国の 2 年制と 4 年制大学の 58%が distance learning course (遠隔学習コース) を提供したが、2002 年にはこの割合が 84%に上昇すると予想している。オンラインコースを受ける大学生の数は 98 年の 71 万人から、2002 年には 210%増の 220 万人に増えるとの証券会社 Merrill Lynch(<http://www.ml.com/>)の予測もある。

これらの予測値の精度はともかくとして、大学等の教育機関が積極的に e-Learning の導入

を図っていることは確かであろう。」 「米国における e-Learning の動向」 荒田良平

世界のいたるところで、バーチャル・ユニバーシティという名のもとに、複数の大学が e ラーニングでの高等教育を提供している。次の大学の e ラーニングは特に有名である。

- ・ Western Governors University (<http://www.wgu.edu/wgu/>)
- ・ California Virtual Campus (<http://www.cvc.edu/>)

海外の e ラーニング事情は上記報告で明確である。日本の場合はどうか、簡単に次に述べてみる。高等教育機関はアメリカの目覚ましい発展に大きな影響を受け、この分野の開拓に必死であることは事実であるが、一番の難問はやはり経費であろう。音声はもとより動画も用意され、教授者側と学習者側との双方向型プレゼンテーション等など、機材・ソフト購入には多額の経費が必要になってくることは想像できる。しかもプログラム開発には長期にわたる検証も必要となり、その分の雇用手当ても当然必要となる。遠隔教育を取り入れた e ラーニングのシステム構築には巨額の費用がかかると予想される。日本では、慶応大学、信州大学などがネット上で確認することができる。

信州大学 インターネット大学院 (<http://cai.cs.shinshu-u.ac.jp/sugsi/>)

The screenshot shows the Sugsi website interface. At the top, there's a header with the Sugsi logo and the text 'Shinshu University, Graduate School of Science and Technology on the Internet'. Below this, there's a section titled 'SUGSI Information' with a list of links. To the right, there's a 'What's New' section with a list of recent updates, including dates and brief descriptions of new content or events.

むすびに

自学自習の旧方法として、その中心にあったのが、通信教育である。テープ教材を主とした方法であった。しかし、e ラーニングの発展により、体系化された教育が可能になった。学習者は

いつ、どこでも、時間の制約なしに、自分の好む場所で、ネットを介在し学習できることが、最大のメリットと言えよう。しかしながらそこには学習者本来の学ぼうという意欲の度合いが最大の尺度となっていることは当然である。いかに体系化された、しかも優秀なプログラムを持ってきたとしても、学習者の途中挫折という魔物には第三者は誰一人として、介入することはできない。この辺の課題を個々が明確に把握し、クリアできれば e ラーニングは今後も世界的なレベルで発展していくことは疑う余地がない。学習者の意欲次第で、ハイレベルな高等教育を例外なく平等に受講できる e ラーニングの発展を全世界の学習者は注目しているのである。

#### 参考文献

- ・ 海外大学における遠隔教育の動向 : <http://www.nime.ac.jp/%7Efdfl/outline.html>
- ・ WIDE University, School of Internet : <http://www.soi.wide.ad.jp/contents.html>
- ・ World Wide Learn : <http://www.worldwidelearn.com/index.html>
- ・ 米国における e-Learning の動向 :  
<http://it.jeita.or.jp/infosys/f-office/newyork0111/newyork0111.html>
- ・ Mainichi Interactive e-learning :  
<http://www.mainichi.co.jp/digital/e-learning/new/index.html>

(平成 15 年 12 月 5 日受理)